

ママントレ

事業の特徴・ポイント

- 主婦が持つスキルに注目し、ライフスタイルに合わせた柔軟な働き方が選べる、新しいワーキングスタイルを確立。就業意欲の高い主婦と地元企業をマッチングし、地域全体を活性化。

事業概要

◎ママントレについては、<http://mamantre.com/>、エリアマイスターについては、<https://areameister.jp/>

1. 働きたいけれど働けないジレンマからの起業

- 代表取締役の須澤氏は、新卒から6年間システムエンジニアとして働いていたが、激務が続いたため、妊娠を機に退社。出産後、正社員として働こうとしても、保育所に入れない、働きたいけれど働けないというジレンマを抱えていた。
- 悩んだ末思いついたのは、“在宅で働けないか”ということ。その頃、商工会で実施していた芦屋女性創業塾に参加。その仲間の相談に乗って、ホームページ制作等を手伝うようになり、フリーランスとして事業を開始した。

2. ママ起業の情報発信・ITを支援する「ママントレ」

- 事業PRにFacebookやTwitter等を活用するようになり始めた時期と重なったこともあり、ママ起業の情報発信やIT支援のニーズは高く、平成23年1月、兵庫県芦屋市で「ママントレ」事業を開始。平成24年には、「ママントレ」ホームページを開設し、“ママ起業のハローワーク”の位置付けで様々な分野で活躍する女性起業家たちを紹介している。
- 具体的な事業として、「ママントレ」では、起業したい方や女性向けのサービスを展開する方に対して、ホームページ制作をコンセプト作りの段階から支援し、効果的なPRが可能な販促ツール制作のポイント等のアドバイスも行っている。

3. 女性の働き方の選択肢を増やす「エリアマイスター」

- 事業を進める中で、芦屋市や近隣の地域には、キャリア・スキルがある主婦が多いことに気付く。子育て中の主婦は、仕事がしたくても、正社員・パート・派遣という働き方では、なかなか思うように働けない。一方、企業にとっても新卒より、キャリア・スキルのほか消費者目線も併せ持つ主婦にやってほしい仕事がある。そこで、平成26年11月に、仕事をしたい主婦と、仕事を依頼したい企業をマッチングさせる「エリアマイスター」を開始。雇用される・起業するという形ではなく、事務やIT等の在宅ワークをはじめ、気軽に主婦が仕事を請けられるという新しい仕組みを構築。有料職業紹介許可も取得。登録会員のスキル・経験だけでなく、案件への興味や親和性も加味して、最適なチームを結成し、業務に臨んでいる。
- web上で完結してしまうクラウドソーシングとは違い、登録会員と企業が直接会うことを前提にしているので、阪神エリア限定での展開としている。
- エリアマイスターの登録希望者には、ブランクの不安を解消するため、キャリアをどう活かせるかキャリアコンサルタントとの相談会を毎月1回実施。また、登録会員にはスキルアップを目的とした勉強会や情報交換の場としての交流会を定期的開催。登録会員のやる気次第で、独立開業や取引先企業への就職の道も整えている。

4. 柔軟な働き方を選べる社会に！

- 平成29年7月には、現役主婦在宅ワーカーのリアルな情報を届ける『在宅わーくわく』ページ(<http://workwaku.areameister.jp/>)を開設。マッチングの仕組みづくりに留まらず女性がライフスタイルに合わせて働き方を選べる社会の実現をめざして、情報発信を行っている。



「エリアマイスター」の仕組み

※チームで仕事をする場合



今後の事業展開について

「エリアマイスター」は個人としての登録であるが、最近になり『住まい』『事務』『web』といったジャンルでスキルのあるメンバーが集まり、情報交換や交流を通して高め合い、チームで仕事を受注するという取組みを進めている。例えば、『住まい』チームは、建築・インテリア・収納といった住まい関連の女性スペシャリストが集結。女性専門家ならではの視点で、好評を得ている。新規会員の獲得とともに、このようなジャンル別のチームを増やしていくことで、「エリアマイスター」の活動の幅を広げていくことを検討している。今後も様々な取組みにより、主婦が持つ情報やスキルの価値を高めていくことで女性が活躍できる場を増やしていく。



産業経済研究員からの一言

- 全国の20～59歳の女性で、家事のほか仕事をしている女性は16.8% (約514万人)、家事をしており仕事をしていない女性は19.6%(約600万人)を占め(平成27年国勢調査)、その潜在的な能力や経験を活かせる余地は大きい。女性活躍推進法の完全施行後1年経過したが、「自らの意思で職業生活を営み、個性と能力を十分に発揮して職業生活において活躍/女性の職業生活と家庭生活との両立に関し、本人の意思を尊重」という、女性の職業生活での活躍と基本原則の達成への取組みは始まったばかりである。
- この取組みの実効性を高めるには、雇用による働き方に加えて、起業への挑戦、自身のスキルを柔軟に発揮できる機会や環境の充足など、柔軟な働き方を主流化することが望まれる。須澤さんは、既存の働き方では自らの意思で職業生活を営むことが困難だと感じ、自身の起業から、起業を希望する女性の情報発信やITの支援、さらに、起業にハードルの高さを感じている主婦の潜在的な能力や経験を、消費者目線を重視する企業や社会に活かす事業に発展させ、経済活動として成立させることに成功している。
- 働く動機は様々ながら、多様性を持った多くの女性が、自己肯定感を持って柔軟な働き方に邁進できるよう、ネットワークを構築し、問題解決型・提案型で取組みを重ね、ステップアップできる働き方を実現しつつある。